

「日本と中国のIT発展現状の比較と原因」

2020学年度 米山記念奨学生 劉 慶昊 (リュウ ケイコウ) 氏

自己紹介 : 1996年中国江蘇省徐州市生まれ。2018年上海交通大学コンピューター科学専門卒業。2019年東京大学大学院学際情報学府修士課程入学。
2020学年度ロータリー米山記念奨学生。



日本に来てから、周りの人たちはよく、「日本のITが弱い」と言いますが、なぜ、先進国の日本がITに関しては後進国なのでしょう。その原因はたくさんありますが、そのいくつかここで挙げてみたいと思います。

1. 中国で流行っているゲームと日本のゲームが違うこと。中国はパソコンゲーム、日本はゲーム機ゲームです。例えば、任天堂とか。もたらした違い：
 - パソコンの基本知識の蓄積が違うこと。15年前の中国は、学校も行かず、ネットバーでゲームをやる若い人たちがすごく多くて、社会問題になるほどでした。しかし、彼らはゲームによって、パソコンの基本操作を習熟していたのです。反対に、日本の子供たちはせいぜい任天堂などでゲームをやるので、小さい頃からパソコンに触れることは少なく、コンピューター知識を学ぶ機会も少なかったのです。
 - 入力方法が違うこと。日本のゲームはコントローラーを使うのは普通ですが、パソコンを使う中国の若い人たちはキーボード入力に慣れて、入力スピードはどんどん上がります。将来ITエンジニアになったら明らかにタイピングスピードが速いのも当然でしょう。
 - 夢が違うこと。日本で流行っているゲームは日本の会社が開発されたものと違って、昔の中国のゲームはほぼ海外から輸入してきたものでした。大人気になったゲームはほぼ米国のゲーム会社が開発したものです。ゆえに、中国の若い人たちは海外に憧れて、留学する気持ちを心に埋め始めました。結果は、グローバル視野の差が大きくなりました。
2. 人材の数と質が違うこと。中国社会は「お金になる」ITエンジニアをすごく大事にしているから、ITエンジニアになる人が多いです。そして、給料がいい職業ですから、優秀な人材は激しい競争によってIT業界に集まり、人材の質がとんでもない高いレベルになります。

第1471回例会 10月7日 (水)

「日本と中国のIT発展現状の比較と原因」
2020学年度 米山記念奨学生 劉 慶昊 氏

次回のプログラム

第1472回例会 10月14日 (水)
(株)Japan Asset Management 代表取締役
堀江智生 氏 (紹介者 児玉 譲会員)